

発行：新潟北高等学校

24112036



## 創立30周年特集



思い起こせば平成22年11月16日に第1回の創立30周年記念事業準備委員会を開催してからはや2年が経過した11月17日（土）本校創立30周年記念式典が新潟市民芸術文化会館（りゅーとびあ）にて開催された。ここまで準備に携わっていただいた全ての方々に感謝するすばらしい会となったことは言うまでもなく、生徒をはじめ多くの皆さんからのご支援やご期待がいかに大きいかが、自覚させられるものであった。



式典前日、意外と気の小さい（他人は外見だけを見て判断をしがちだが……）私は、翌日のことを考えて眠れず、何度も何度も進行表と準備要領を読み直し、落ちはなかったか、指示漏れがなかったか確認する。（実は、前日「しおり」の間違いが発見され、落ち込んでいたのだ(T\_T)) 気がつくとも夜が白々と明けてはいなかったものの、草木も眠る丑三つ時(\*\_\*)そのまま起きていると本番でつらくなることが容易に予想できたため、床につく。荒天にだけはならないことを祈りつつ。

迎えた当日の朝、快晴とまではいかなかったが比較的穏やかな天候に恵まれ、やれやれといったところであった。食事もそこそこに一路りゅーとびあへ！いざ、出陣！といった心境。到着するとチラホラ先生方の姿が。打合せもそこそこに作業開始！さすが先生方、分かってらっしゃる(^-^)[テキパキと準備する先生方の姿、生徒にも見せたかったなあ。]その間、リハーサルを行ったり、段取りの打合せなどに余念がない。あとは、生徒達が欠席・遅刻をすることなく本番に臨んでくれれば……、などと思っていたが、それも杞憂に終わる。そこは、さすが北高生！式典開始直前には、ビシッと会場の雰囲気引き締まる。

さて、開式の辞に続く国歌斉唱。ホールで聴くパイプオルガンの音色が更なる厳粛さを醸し出す。実行委員長のあいさつから学校長式辞、来賓祝辞と粛々と進む。初代校長の清水先生はそのご祝辞の中で次のように述べられました。「人間が学び鍛えるには適時性があり、ちょうどよい時に鍛えるのがよい。だから、『鉄は赤いうちに鍛えよ。』『人間は青

少年時代に鍛えよ』といわれており、その具体的方法の一つとして『安易な方向に流れようとする心を抑えて我慢すること。それも、昨日より今日は一分長く我慢すること。これで鍛えられるのです』と。そして「さあ皆さん、微かでもよい、北の空に輝く空の星になりましょう」と全校生徒に呼びかけられました。なんと、愛溢れ、



ここに響く言葉でしょう。我々職員も生徒も創立当初の想いをしっかり受け止め、これからも脈々と受け継いでいかなければならないということを再確認できたのであった。

初代校長 清水外明先生

続いて14名のご来賓を紹介し、祝電披露、生徒代表喜びの

ことばへ。「心配だなあ、そういえば前日だけ、これができたのは(∩;)」という思いが

微かによぎったものの、素晴らしいものであった。清水先生の祝辞に呼応するように、先生の言葉を引用しつつ、「創立時に校庭に植えられた桜のように私たちも30年後、社会においてどっしりと根をはやし、堂々と生きていきたい。そして、今後の北高校のため、今まで以上に北高生としての誇りと自覚を持って学校生活を送る。」と、力強く誓いを述べました。言い終わると同時に、会場から割れんばかりの拍手！！



生徒代表 菅原圭介君

この言葉を生徒の皆さんはどう聞いたでしょうか？その答えは40周年、50周年、いや30年後の60周年に持ち越すこととしよう。(そんなこと言ってる私はいったい何歳？になっているのやら……)

そしていよいよ式典のフィナーレ、校歌斉唱へと。パイプオルガンの音色に引き立てられ、総勢800余名で声高らかに歌った校歌のなんと気持ちよかったこと(^\_-)そして、万感の思いが胸にこみ上げてきたのは私だけではあるまい。





## 記念講演



記念式典は、進行表通り無事終了(^o^)ホッとしたのも束の間、記念行事はまだまだ続く。

次は、元高校教諭である宮本延春氏を講師にお招きしての講演会。演題は「オール1の落ちこぼれ、教師になる」であった。この方をお招きしたのは前校長 坂上 隆先生のたっのご希望であり、1年以上も前から打診し、やっと実現した講演でもあった。

先生は、その軽妙な語り口とご自分の生い立ちを包み隠さず話をされたことから、大変好評を博した講演となった。実は、75分の講演予定（本校生徒は長くてこれくらいという私たちの経験則から）を大幅に上回る90分にも及び、大変熱のこもったものとなった。

先生は、「『当たり前(あることが常のもの)』の対義語は？」と聴衆である私たちに語りかけ、「第一段階としては『当たり前じゃない。』＝特別。」と話された。一瞬、国語の教員免許状を有している私は？？？と思ったが、次の説明で納得させられたと同時に、自分の浅学さを嫌というほど思い知らされるはめとなった。「『当たり前じゃない(あることが常ではない、つまり、あることが難しいもの)』＝『有り難い(う)』』ということである、と。

私にとってはまさに青天の霹靂、目から鱗が落ちた話であり、言葉の持つ意味の奥深さに改めて感動を覚えたとともに、今後の人生においても大きな意味を持つ講演となった。先生が話されたように、私も1日5回は何事かに対して「有り難う」と言おう（心の中で呟こう）と固く誓うこととなった。

そして、先生は最後に「出会いが大切！！」とおっしゃって締めくくった。私もこの言葉には同感である。その君、そしてその貴方、平生の生活の中に「他人との出会いはゴロゴロしている」ことに気づいてほしい。それを生かすも殺すも自分自身なのだから。

# 記念演奏

宮本先生の記念講演に引き続き、本校OBヤンさん（4回卒）の登場！

湧き上がる歓声！皆さんは、ヤンさんが、本校OBだってこと知っていましたか？ラジオやテレビで活躍していらっしゃるあの方ですよ。

この記念演奏についての進行はすべてヤンさんにお任せ～していた私はしばしそのトークに引き込まれる。そして次に登場したのはこれまた本校OBの田村佑介氏（本校14回卒）。万代太鼓「華龍」の代表者で本県で開催されたオールスターゲームの際も和太鼓演奏を披露した方でもある。

ここでヤンさんから田村さんにバトンタッチ。いよいよ「華龍」の演奏が幕を開ける。



迫力あるバチさばき、腹に響く太鼓の音！！ド迫力の演奏に一同固唾をのんで耳を傾ける。耳だけではなく、身体全体で聴くとはこうしたことなのか、と感心しきり。（コンサートなどに今度出かけてみよ～っと。）その後、お二人の本校での思い出話に花が咲き、当時



を知る旧職員や後援会、ゆずる会の参列者は納得の笑顔。続いては、聖籠太鼓「SATO-OTO」の登場。万代太鼓とは少し違った趣に観衆達も酔いしれる。



そしていよいよ本日のフィナーレ! 「華龍」と「SAT0-0T0」総勢27名による明日へとつながる希望の演奏。生徒をもまきこんで感動的なものとなった。

私の中にやりきった充実感が漂っていたのは言うまでもないが、後始末が～(@\_@) 現実に引き戻される。しかし今だけは……。

**準備から本番まで何らかの形で関わっていただいた全て**

**の皆さんに感謝m(\_ \_)m感謝m(\_ \_)mである。(これで今日はあと3回) 皆さんも1日5回運動を続けていきましょう(^\_^)**

※ 宮本先生の写真等については肖像権の問題で掲載しませんでした。

※ 今号のすべての写真はスタジોકリマが撮影したものです。